オオツノヒツジ（*Ovis canadensis*）の３カ月間の採血馴致の経過報告

宮崎駿平
（横浜市立金沢動物園）

金沢動物園では2023年よりオオツノヒツジの採血による早期の妊娠判定を試みている.しかし,当園におけるオオツノヒツジの採血の多くは保定下で行われ,妊娠個体には保定による精神的ストレスや物理的な圧迫により流産や死産に繋がるリスクがある.採血に伴う保定のリスクを低減するため無保定での採血に取り組んだので,その馴致経過を報告する.

採血馴致は採血実施場所への誘導,静止,針刺しへの馴化の順に構成し,獣舎内の同空間で実施した.なお全ての工程で強化子として草食動物用飼料（ZC,オリエンタル酵母工業株式会社）を用いている.オオツノヒツジ3頭の無保定採血の馴致に取り組んだ結果、記録を続けた3カ月の期間中に№73,№78で無保定での採血を成功することができた.№73は人工哺育で育ち,№78は幼獣の頃から前任担当者がハズバンダリートレーニングを実施していたことから,人に触れられることに慣れていたためだと考える.しかし残りの1個体№70も後日無保定での採血を実施することができたことから,いかなる個体も馴致に時間を要することで無保定での採血は可能だと考える。

課題としてはサシバエの対策である.9月と10月に忌避行動が減少してから再び増加した日があったが、この増加する原因の1つとしてサシバエが影響していた.夏季と初秋の晴れた日にサシバエが集中して発生し,オオツノヒツジに接近することで忌避行動が発現していた。夏季と初秋の馴致作業及び無保定での採血はサシバエ除けの薬剤や粘着トラップを使用し,忌避行動を予防することで円滑に実施できると考えられる.

今後も継続的な無保定での採血により検査結果を積み重ね、様々なライフステージでの正常値を把握するとともに,早期の妊娠判定により繁殖やペアリングの機会の損失防止に役立てていきたい。